



愛隣幼稚園.....

園だより

.....15. 4月号

一人で立って歩く

幼稚園の4月は新しい1年の始まり。まさに「あけましておめでとう！」の気分です。お正月ではありませんが、子どもたちにも大人たちにもひとつひとつが新しく、新入園の皆さんに限らず気持ちがしゃんとする時でもあります。何となくおろそかになってしまったことを、初心に帰ってやり直してみましよう。“1年の計は元旦にあり”心新たに2015年度のスタートです。

先週入園した子どもたちの中には、卒園児や在園児の兄弟・姉妹が何人か含まれていました。3歳の子どもたちですから、私はその子どもたちの赤ちゃん時代から今日までのほんの一部を、朝の「おはよう！」と共に過ごさせていただきました。お家の人に抱かれ、正に一心同体のような赤ちゃん時代がありました。抱っこされた腕の中からニコリ笑って、覗き込む人々の笑顔を引出し心を和ませていました。しばらくすると、腕の中の小さな人は目をぱっちり見開いて、自ら興味のある方向へ頭をくるくる動かし始めます。声のする方、動きのある所へ目をやり「なんだろう？おもしろそう？」とじっと見えています。それからまたしばらく経つと、抱っこひもから伸びる手足は、もう何だかそれには不似合いな長さになってきます。「そろそろお解き放ちを！」という声が聞こえてきそうです。そう感じるようになったら、もうあっという間です。小さい人は“一人歩き”を始めます。おぼつかない足取りではありますが、ある時は一人で、ある時は手を繋いで。自分の足で歩くことができる！と、そのこと自体を楽しんでいます。トコ、トコトコ、ストトト、ドテッ。そんな時には転んでも、何事もなかったかのように起き上がります。自分の足で立ち、歩けることがおもしろくてたまらない、そんなふうにも見えるのです。更に、自分の行きたい所へ自由に行くことができるなんて！こんな嬉しいことはありません。小さい人はトットコ歩き始めます。さっきまでしっかり繋いでいた手をすっと離して、私の世界の中へ引き込まれるように歩いていきます。今まで遠くから見ていたものは、手の届くものになります。やってみたかったことに挑戦することができるようになります。失敗すると泣いてお家の人に助けを求めますが、安心するとまた、果敢に挑戦を繰り返します。「あぶないっ。」「もう、おしまい。」この頃からお家の人々の声掛けが変わってきますが、その声も聞こえないほど、夢中になる姿があります。やがて小さい人は、そんな楽しいあそびの先で同じことを面白がっている別の小さい人に出会います。同じことを同じようにしながら小さい人の距離は近くなっていきます。特に挨拶もなく「いれて。」「いいよ。」のやり取りがあったわけでもありませんが、同じことを面白がっています。ただ2人で走っているだけでも面白い。同じ水たまりを足でびしゃびしゃしているだけなのに、コロコロ笑って幸せそうです。が、次の瞬間には大きな泣き声。ぶつかり合いも始まります。小さな人の世界がこうして広がっていきます。

小さい人が、自分の足で立ち、歩き出すとあっという間にその人の世界は広がっていきます。見る物、触る物も、出会う物、人、どれもが新しく、どれもが心揺さぶる刺激です。おもしろかったり、不思議だったりすることが興味や関心を抱かせます。仲間といることを楽しいと感じたり、やっかいと思ったりする複雑な感情が生まれてきます。一人で立って歩き始めるということの意味を、子どもたちと共に生活する私たちは、年の初めに心に刻んでおきましょう。3歳も4歳も5歳も、それぞれに一人歩きを始めています。一人で歩き始めた子どもたちの挑戦を支えたいと思います。心配も面倒も増えていきますが、これなくしては本当の“自立”はありません。覚悟して、しかし楽しんで、そしていつでも帰って来ることができる安心基地になりたいと思います。